コラム

⑧⑥

中嶋哲夫の「人事も歩けば」

宗吾霊堂

仕事のついでに，千葉県の佐倉市に足を伸ばしました。佐倉には歴史民俗博物館があります。権力の動きだけでなく，十三湊や先島諸島，対馬など異国と交流した人々の歴史を学べるのが魅力です。

ついでのついでに，東勝寺にある佐倉宗吾（佐倉惣五郎）をお祀りする宗吾霊堂に足を伸ばしました。京成本線の宗吾参道駅から徒歩15分くらいで到着できます。

佐倉宗吾。義民として有名です。「佐倉義民伝」として，歌舞伎や前進座，講談などの演目になっています。説明書では1612年生まれ。ムラの名主です。藩の支配機構の末端の役割と同時に，ムラの富農でもあります。

宗吾は，凶作と重税に苦しむ領民が暴発するのを何度も止めます。しかし，藩主の政策が改まらないので，農民の苦しさを共有しています。このため，苦心惨憺（くしんさんたん）して藩主や国家老に訴えますが，藩政は改まりません。やむなく宗吾は死を覚悟して，４代将軍徳川家綱に直訴する決意を固めます。宗吾は後難が及ばないよう家族との縁を切り，単独で直訴し，それが成功して藩政は改められます。しかし，宗吾は直訴の罪で捕えられ，４人の家族とともに処刑されます。それが佐倉義民伝です。

義民伝が何処まで史実に忠実かはわかりませんが，宗吾はそれ以来，農民の神様として東勝寺で祀られています。宗吾講や義民講も組織されて，今も参詣者が絶えないとのこと。筆者が訪ねた年末は参詣客もまばらでしたが，門前に旅館が何軒かありますから，多くの方が参詣されることが推測できます。

▲農民の神様，義民・佐倉宗吾が祀られる霊堂

江戸時代の庄屋（名主）には，中世以降のムラの有力者を藩主が指名します。ムラの自治組織を温存し，無用の混乱を避けたうえで，統治機構の末端を庄屋に担わせる。同様の制度として，現代にも区長制度のある地域があります。非常勤のムラの職員ですが，ムラの代表者です。組織の課長も，組織から指名されますが，職場の代表という性格ももっています。

矛盾する役割を上手にこなせる人材が名望家といわれ，貴重な存在となれるのでしょう。

（MBO実践支援センター代表　大阪商業大学特任教授）